

ガイダンスのレベル・プロセスについて

学情センターでは、学生の理解度や情報探索のレベルに合わせた段階別のプログラムをご用意しています。

WEBの検索が一般的になり、一方で図書や雑誌といった紙の資料、マイクロフィルム、ビデオなどのマルチメディア資料に触れる機会が急速に減っています。学術的な研究・調査を行うには、これらのメディアを総合的に活用する能力が必要となってきています。

学情職員が開催するガイダンスでは、WEBデータベースの実習とともに、適宜、紙の資料も紹介し、情報リテラシーの総合力向上を目指します。

基礎編

〔目標〕

- ・OPAC を利用し、指定された資料を検索できる。
- ・図書館資料の配置や分類法を理解し、自ら現物にアクセスすることができる。
- ・与えられた情報源を検索できる。
- ・参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。

〔対応するガイダンスプログラム〕

OPAC 講習会（1回生前期向け） / 学術論文の探し方-CiNii-講習会（基礎コース）



応用編

〔目標〕

- ・文献検索の検索語（同義語・上位語・下位語）を工夫できる。
- ・ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。
- ・情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。
- ・資料リストを作成し、管理できる。

〔対応するガイダンスプログラム〕

情報検索講習会（オーダーメイド） / 学術論文の探し方-CiNii-講習会（基礎コース）



発展編

〔目標〕

- ・先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。
- ・望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードを見直すことができる。
- ・他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。

〔対応するガイダンスプログラム〕

情報検索講習会（オーダーメイド） / 学術論文の探し方-CiNii-講習会（アドバンスコース）

※内容は、「活用体系表（例）」『[高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版](#)』に基づいています。